「グローカル生涯教育」推進

学校法人 大阪滋慶学園

滋慶学園グループの学校法人大阪滋慶学園が、「グローカル生涯教育」を推進している。「グローカル」とは国際社会〝グローバル〟と、地域社会〝ローカル〟のいずれにも貢献できる人づくりを目指して造られた言葉で、医療を中心に専門学校ならではの教育により、これを実現する実践力ある人材を育てている。2011年には滋慶医療科学大学院大学が、13年には島根県出雲市に出雲医療看護専門学校が開校した。15年には鳥取市に「鳥取市医療看護専門学校」、さらにはインターネットを利用した通信教育を行う「滋慶大学」の開校も計画するなど、大阪滋慶学園の新たな挑戦が始まっている。

来春、鳥取市医療看護専門学校を開校

大阪滋慶学園の「グローカル生涯教育」は地域社会への貢献と、国際的に活躍する人材の育成を目指している。この目的のため、大阪の専門学校で実績のある医療系を中心とした人材育成システムを地方都市でも実践し、教育理念に掲げる「国際教育」や、インターネットを使った教育にも力を入れている。地方の医療現場に目を向け、地元自治体と調整しながら、不足しがちな若手の医療人材育成のためのシステムづくりを始めている。

大阪保健福祉専門学校に設置している通信教育科の授業

こうした中、13年4月に開校した出雲医療看護専門学校に続き、山陰地方で2校目となる鳥取市医療看護専門学校が15年4月に開校を控える。交通に便利なJR鳥取駅の北口前にある県営駐車場跡地、約1600平方㍍の敷地に鉄骨造り6階建て校舎を建築する。延べ床面積は約6100平方㍍の規模となる。13年10月に着工し、14年5月末に完成する予定だ。総工費約13億円の一部は、鳥取市などから助成を受けている。

鳥取市医療看護専門学校の初年度入学生は1学年、看護学科（3年制80人）、理学療法士学科（同40人）、作業療法士学科（同40人）、言語聴覚士学科（大卒対象・2年制40人）の計200人を予定している。地元で働く若い医療人材を地元で育成するシステムの確立は、山陰地方の医療現場に新しい風を吹き込むだろう。鳥取市や鳥取県内だけでなく、兵庫県北部からの人材受け入れも見込まれる。こうした大阪滋慶学園の取り組みは出雲市と鳥取市が将来、企業誘致などを含めて医療産業都市、福祉都市を形成するといったきっかけにもなるはずだ。

15年4月開校予定の鳥取市医療看護専門学校（完成イメージ）、**JR鳥取駅前の好立地を生かして地域医療を支える人材を育てる**

「滋慶大学」は現在、設置認可申請中。文部科学省が15年度解禁で計画を進めているインターネットを通じた授業を行う大学だ。ネット上からライブや録画での講義を配信し、単位取得できる。1学年の募集を150人、3年次の編入定員200人、総数1000人の規模を計画している。学科は医療福祉マネジメントで、取得できる資格は社会福祉士、精神保健福祉士、診療情報管理士を予定している。キャリアセンターも設置し、就職支援も積極的に行う考えだ。現在は、JR新大阪駅前で今年12月完成をめどに新しい校舎の建築にも着手している。次代を見据えた最善の一手を繰り出し、人材育成に全力を注ぐ。

通信教育でも〝新風〟起こす

大阪滋慶学園に〝新たな顔〟として、3人の学校長が就任した。医療界屈指の研究実績と豊富な経験を発揮し、同学園が掲げる実践教育のかじ取りをする。現状、医療現場では技術や関連機器の高度化が進展する一方、多様なパートを専門的に担うプロフェッショナル人材が求められている。社会貢献を果たす〝即戦力〟輩出に挑む各氏に今後の抱負を語ってもらった。

新学校長3氏 抱負を語る

医療・福祉支える 確かな人材輩出

大阪医療福祉専門学校　武田 裕 学校長

1月10日付で大阪医療福祉専門学校の学校長に就任しました。医療・福祉分野は高齢化社会、高度技術社会の到来とともに、専門職へのニーズは高まる一方です。このために、本校では実践能力を重視した人材養成を第一に取り組んでいます。教職員、学生が一丸となって実学を習得する環境づくりをして、その成果を評価しながら、人づくりの実践教育マネジメントを実現します。

実学習得の環境整備

私は滋慶医療科学大学院大学の学長を兼務しています。大学院大学も大阪滋慶学園の1校です。幅広い年代の学生に触れることは得ることも多いと感じています。大学院大学と専門学校の双方で大きなメリットが生まれるよう職責を果たしたいと考えています。

大阪医療看護専門学校　俣野 彰三 学校長

現代医療は医師を中心に多様な職種の人が一つのチームとして患者に対応します。中でも看護師は最も患者の身近にいます。患者の気持ちを理解し、心から頼られる人材育成が最大の使命です。

建学理念柱に特色も

そのためにも大阪滋慶学園が掲げる実学教育、人間教育、国際教育の建学理念を柱に教育の特色を発揮できればと考えています。特に当校は国立病院機構刀根山病院に隣接し、教育交流など実学教育に恵まれた環境が大きな利点と言えます。一方、教員はそれぞれ各人の特性を的確に把握し、きめ細かい指導や対策を実践しています。学生には途中であきらめず最後まで憧れていた道を目指してほしいと思います。

大阪医療技術学園専門学校　礒橋 文秀 学校長

医療は医師を含め多様な分野の専門家がチームを成し、安心かつ高度な領域に挑戦する時代。そのため各メンバーはプロ集団としての技術を磨き意識を高める必要があります。国は高度な専門家育成のため「職業実践専門課程」を14年度よりスタート。産業界とともに専門学校へ質の高い人材輩出を期待しています。

スペシャリスト育成

大阪医療技術学園専門学校では充実した環境を整え外部実習や海外研修などを通し実学を実践。臨床検査技師や医療秘書、言語聴覚士、鍼灸師など幅広い分野のスペシャリストを育成しています。

学校長として、これまでの流れを継承し、より精度を高めることが重要な使命と感じています。

看護師への一歩、胸に刻む

大阪滋慶学園3校で 戴帽式と宣誓式

多くの看護学校や看護系大学では、「戴帽式」や「宣誓式」と呼ばれる式典が開かれている。いずれも看護についての専門教育を受ける学生たちが、病院ではじめての実習に進む前に実施するもので、大阪滋慶学園でも今年度、3校で挙行された。

10月26日には出雲医療看護専門学校で開校後初の宣誓式（写真上）、11月2日には大阪医療看護専門学校が戴帽式（写真中）、11月3日には大阪保健福祉専門学校看護学科による戴帽式（写真下）が厳粛な雰囲気のもと、それぞれ執り行われた。

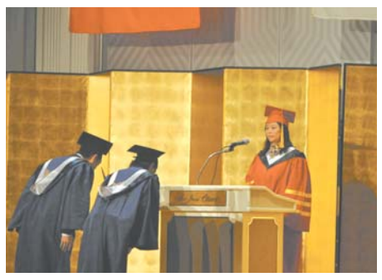
戴帽式は1年生がナースキャップを受け取り、病院実習に臨む前に決意を示す場でもある。看護師としての自覚を持つ第一歩を胸に刻むために、グループ各校では戴帽式を大きな節目ととらえている。医療現場に出ればベテランも若手も区別はない。患者からすれば、実習生とはいえ、皆が頼りにする看護師である。学生一人ひとりがこうした意識を深めるためにも、戴帽式を実施する意義は大きい。

海外とキズナ深める

中国の大学院修士号を日本でも

滋慶医療経営管理研究センターは中国・アメリカの提携校との連携により、海外にある大学院の教育プログラムを提供している。上海中医薬大学とは共同で、同大の大学院で中国の修士課程を学べる教育合作センターを日本国内に設置。2010年度には、初の医科学修士（鍼灸）が誕生。13年度には2人が修士号を取得した。

修了生は「日本で中国の大学院修士資格が取得でき、中医学の本場で活躍されている老師の講義が受講できることに魅力を感じ入学した。今後は自分の臨床経験と上海中医薬大学大学院で得た知識や技術をもって鍼灸師を目指す学生を指導、鍼灸治療のすばらしさを広く伝えていきたい」とコメント。



上海中医薬大の朱惠蓉副学長（右端）から修士号を授与される修了生

鍼灸師でもう1人の修了生は、「中国伝統医学理論の奥深さと臨床経験によって裏付けられた技術を肌で感じることができた。伝統医学の研究の難しさやその研究が必要とされていることも実感した。今後は鍼師・灸師養成施設での中医学教育の充実を目指すとともに、さまざまな場所で中国伝統医学の普及につながる活動をしていきたい」と話す。

提携校との交流でノウハウ磨く

大阪滋慶学園の各校では、海外の提携校との交流事業にも力を入れている。

例えば入学式、卒業式にほぼ毎年、米国と中国の医療系大学や高等専科学校から来賓出席があり、提携校の院長らが祝辞を述べている。中国の代表的な出席校は上海中医薬大学や上海医療器械高等専科学校、廣東医学院、廣東薬学院などが挙げられる。

また、大阪ハイテクノロジー専門学校では2006年に、米国のセリトス・カレッジからブライアン・ケーブルアスレチックトレーナーを招き、同国の先進的なスポーツ療法の独自ノウハウを取り入れた。このほか、理学療法士や臨床心理学者らの招聘（しょうへい）実績がある。

海外校と長年にわたり築いてきた信頼関係が、こうした交流実現に表れている。大阪滋慶学園の海外に目を向け続ける姿勢は、海外校からも高い評価を受けている。

米国の提携校での組織学実習（右から2番目が臨床検査技師科の実習生）

医療安全で研究会

滋慶医療科学大学院大学

第2期生の学位記授与式には多数の来賓が出席（戴帽しているのが修了生と学校関係者）

2011年、国内初となる「医療安全管理学」の修士課程を置く滋慶医療科学大学院大学が開校した。あれから3年が過ぎ、14年3月には第2期生が修士課程を修了した。13年9月、2代目学長に就任した武田裕氏（大阪大学名誉教授）は「学長は方向性を示すことが求められる」と話す。そこで医療安全の推進を目的に「医療安全実践教育研究会」を設立。大阪大学医学部付属病院や神戸市立医療センター中央市民病院などが参加し「医療安全教育の実践的方法を求めて」と題した第1回学術集会を3月16日に開催した。武田学長は「チーム医療を実践的に果たせる人材を育てることが使命」という。

医療には各職種同士の密接な関係構築が求められる。武田学長は「医療現場では事務職も戦力。医療に関わる人すべてが情報共有できるようにしなければならない」と指摘する。医師を筆頭に事務なども含めて、医療現場では意思疎通が何より重要になる。

同大学院大学は1学年定員24人で、平均年齢は45歳程度だ。学生たちは「自由な議論ができている」（武田学長）と世代を超えた〝医療人〟が医療の質と安全を念頭に学んでいる。将来的には博士課程の設置も視野に入れる。また同校ではチーム医療の実現で地域医療に貢献する目的がある。医療版MBAとも言える同校での2年間。研さんを積んだ医療従事者として、医療現場での実践力が期待される。

社会人の生涯教育支援

滋慶医療経営管理研究センター

大阪滋慶学園が力を入れている活動のひとつに、医療・福祉に携わる人材のキャリア開発の手助けがある。「滋慶医療経営管理研究センター」は、さまざまな角度から社会人の生涯教育をサポートしている。

高度化、複雑化が進む医療・福祉業界だからこそ、専門技術や管理職のフォローなど職種に応じた的確で手厚いキャリア指導を行う。

同センターが中心となり、「アジア職業人材養成センター」を設置しているのも特徴。中国などアジア各国の学校とのパイプを生かし、留学生に対しても日本人学生同様の手厚い支援を可能としている。

「医療経済の基礎知識」をテーマに開催したセミナー（2月8日）

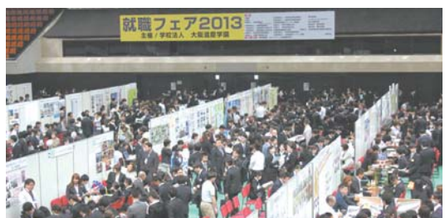
社会人に対するキャリア教育で、高度な専門職業人の育成を目的とした「医療経営管理セミナー」も大きな取り組みとなる。2013年度は計6回にわたって開催。医療現場でのリーダー育成や地域医療の状況などの現状紹介で、京都大学大学院医学研究科の教授をはじめ、講師陣も幅広い分野から招聘（しょうへい）した。

最終6回目は3月29日に開かれ、14年の診療報酬改定を見据えた議題がテーマとなった。医療事務職の参加者らが熱心にメモを取る姿も多くみられた。大阪滋慶学園ではこうしたキャリア教育を柱にしたセミナーに来年度以降も引き続き、力を入れていく。

5月に就職フェア

大阪城ホールで 3500人参加見込む

大阪滋慶学園は、グループ5校の学生を主な対象にした合同企業説明会「就職フェア」を5月12日、大阪城ホール（大阪市中央区）で開催する。節目の10回目となる今回は、昨年を上回る約250の病院や福祉施設が参画する。大阪滋慶学園以外の学生も参加でき、約3500人の参加を見込む。学生にとって自分の進路希望と就職希望先のニーズを照らし合わせる機会となる。



昨年の同フェア会場

今回の就職フェアの幹事校となる大阪ハイテクノロジー専門学校キャリアセンターの田中利明センター長は「学生にとって、新学期が始まる段階で就職への意識を高めるきっかけにしてほしい」と開催の意義を話す。

学生の就職をサポートするキャリアセンターでは、日常的に病院などの事業所訪問を地道に続け受け入れ側との信頼関係を築いている。事業所向けのセミナーなども実施しており、2013年度の求人数は約2万8000人、求人件数は約7000件にのぼる。

同センター長は「看護師をはじめとする多くの医療人材・福祉人材・健康関連分野の人材を育て、医療・福祉・健康関連の現場で中核を担える人材を多く出していきたい」と話す。学生にとっては最初に社会を肌で感じることができる就職フェア。学生の将来に向けた挑戦が始まる。